

創造的過疎と

お昼ごはんの集い

徳島・神山町で仲間たちと活動を重ねてきた
NPOグリーンバレー理事長の大南信也さんは
近年、よその土地で神山の話をする機会が多い。
そこで「どんな話をしているのか？」

神山の人々とともに、そのお話を聞きながら
なかでも彼がよく口に出している

「創造的過疎」の話を、町役場の杼谷学さんや
小学校の堀井晴美さんも交えて掘り下げます。

おいしいお昼ごはん付きのイベントです。
神山の方も遠方の方も、どうぞお越しください。

2014年11月9日(日)

神山町農村環境改善センターにて

9:30 開場 定員 120名

午前の部 【参加費無料・お申込み不要】

10:00 ~ 12:00

大南信也さんは神山のそとで、
どんな神山の話をしているのか？

神山町役場 総務課 杼谷学さん

神領小学校 4年担任 堀井晴美さん とともに



大南信也さん(左) NPOグリーンバレーの仲間とともに

午後の部 【参加費 1500円・要お申込み】 高校生以下は無料・申込不要

12:00 ~ 13:00

お昼ごはん

13:00 ~ 15:00

ワークショップ

創造的な過疎を生きるには？

15:00 ~

甘味とお茶 …解散



進行役：西村佳哲 堀井晴美さん 杼谷学さん

このイベントは、徳島県神山町のNPO法人「グリーンバレー」、広島県尾道市のNPO法人「尾道空き家再生プロジェクト」、鳥取県鹿野町のNPO法人「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」による2015年春までの連携事業の一環。3つのまちが互いに進めてきた2年間の交流と学び合いの、今回の舞台は徳島県・神山町です。

神山町役場 総務課 梶谷学さんのお話

今年から「ふる里トーク」という活動を始めています。移住者と神山で暮らしてきた住民のうち希望者が、3ヶ月に一度集まって、これから神山でどんなことが出来るか、みんなて話し合っているんです。いいアイデアが生まれるといいし、実際に形にしてゆきたい。けどまずは『こんな人がいるんだ』と、お互いのことを知るのが大事だと思うんです。そのための場にもなれば、と思いつつ進めています。

神領小学校 4年担任 堀井晴美さんのお話

去年、子どもたちにアンケートをとってみました。「将来、神山町で暮らしたいと思うか?」すると全員がここで暮らしたいし、働きたいという。1人だけ、その仕事の内容だと難しいねと話をつわした子がいたけれど、みんな神山が好きだと書く。理由を尋ねてみると、「アドプト・プログラム(道路清掃・美化の活動)」を挙げる子が多かった。小学校でも月に一度、みんなて取り組んでいるんです。その経験を「誇りに感じている」と言うんですね。

そこに人間の「生きていく意味」があるやん。結果がどうなるのかはわからなくても、今やりよる一つひとつがポジティブな行動であれば、自分たちが想像もしなかったところでまた別のなにかに花開くかもわからんし。

— 計画があるわけじゃない。

「あつちだよな」 くらいの方向性はあるけど、そこに向かう道は一つではないと思うのよな。10年、20年後を予測出来る人間なんておらんし、状況は常に変わりよる。そもそも僕らは民間やけん、計画にしばられる必要はない。

でも健全に進んで来とんのかなと思うよ。各市町村の行政職員が近況を発表し合う場で、よそのまちは「高齢者が増えてしまった」「サービスが行き渡らんようになって」「みたいな話が多いけど、神山の役場から来る子だけ「保育所に行く」と移住者の子どもたちが増えて」とか「まちなかを若い人たちがぐるぐる回るとるんですよ」と明るい話をするんだという声を県庁で聞いた。

グリーンバレーは、地元の人に

自分たちの考えを説明するより、結果を見て判断してもらおうという気持ちで活動してきた。で、役場の人たちには「あまり関心持ってもらえていないかもしれん」と思っていた頃もあったけれど、最近僕らを訪ねて来るよその視察に、町の若い職員が2〜3名づつ同席して、一緒に話を聞く機会をつくったりしてる。

自分の町で起こっていることを面白がるとるようで、これはプライドというか、なんらかが芽生えとるわけよな。

で、脳天気に向かうのが多分ええと思う。日本人はまあとかく暗く考えますけど(笑)。

適当にあがいとつたら、今はまだ方策がわからなくても、なんか起こる可能性はあるだろう。でもそのときに何もなくなつたら何も起こらないわけだから、小さいながらも、営みをつづけてゆくこと自体が大事だと思うんよ。

2014年8月5日

聞き手・西村佳哲(大埜地在住)

11月9日には、より詳しい話をみんなて。ごはんもいただきながら。どうぞお越しください。